

## HRガイド

## ライフシフト支援戦略

～人生100年・80歳現役時代の働き方・人材活用のあり方とは～

株式会社ライフシフト CEO 徳岡 晃一郎  
多摩大学大学院教授・研究科長

## ■ まずは人生100年時代の働き方の理解から

人生100年、ライフシフトの時代がやってきた。年金受給開始年齢の引き上げ、定年延長、シニアの活性化のための評価・処遇、高齢者の適正配置・社外転身の促進など、人事部にとっては一時期の成果主義の導入、リストラの断行に次ぐ大波といってもいいだろう。この大波をどう捉えて乗り越えていくべきか、人事部の皆さんにはまず「ライフシフト」についてのしっかりとした認識を持っていただきたいと考える。ただ、この課題を重くのしかかる高齢化の不安要素と捉えるのではなく、次の時代の生き方・働き方のモデルを形成していく大きな可能性として取り組みたい。人事部の皆さんには、自分のライフシフトと向き合い、チャレンジの方向性を正面から社内に伝え、多くのシニアの社員、今後すぐにシニアになる40代、そして、人生100年時代に不安を持っている30代の社員たちに、明るい未来の選択肢として示して行ってほしいのだ。

まずは人事部の皆さんに、構造変化の基礎とライフシフトのインパクト、戦略性の大きさをご理解いただきたいと願って筆をとった。 (著者)

## CONTENTS

- 1 2つのグローバルな大波を前に立ちすくむ日本企業
- 2 「80/60」から「100/80」の時代へ30代・40代からの準備は不可欠
- 3 消極的終身雇用で定年を迎えても100年時代に対応できない
- 4 働き手が常に考えるべき3つの価値観とは  
(1) 可能性 / (2) 選択肢 / (3) 仕込み
- 5 100年ライフ社会を謳歌するための3つの生き方・働き方パターン  
(1) エクスプローラー / (2) インディペンデント・プロデューサー / (3) ポートフォリオ・ワーカー
- 6 100年ライフに備えるための年代別エネルギーマネジメント
- 7 ライフシフト成功のカギ3つの「変身資産」を形成する  
(1) 変身資産 / (2) 生産性資産 / (3) 活力資産
- 8 成長を阻害する罠にご注意  
人事部門が担うワークシフト支援とは
- 9 人生100年時代の打ち手はジェロントロジーの視点で

## ■ 徳岡 晃一郎 (とくおか こういちろう) :

1957年生まれ。東京大学教養学部卒業、オックスフォード大学経営学修士。1980年に日産自動車に入社し、同社人事部門各部署、欧州日産などを経て、1999年より社内外コミュニケーションに関するコンサルティングで世界最大手のフライシュマン・ヒラードに転じ、人事、企業変革、社内コミュニケーション等のコンサルティングおよびリーダーシップ研修などを提供。2014年より多摩大学大学院研究科長。2017年株式会社ライフシフトを創業、同社CEO。著書に『MBB：思いのマネジメント』（野中郁次郎名誉教授、一條和生教授との共著）、『ビジネスモデルイノベーション』（野中名誉教授との共著）、『人工知能×ビッグデータが「人事」を変える』（福原正大氏との共著）、『イノベーターシップ』などがある。



## ■ 株式会社ライフシフト :

●住所：東京都港区港南2-15-1 品川インターシティ A棟28階 ●URL：<https://life-shift.net> ●TEL：03-6695-5566